プログラミング 5回目	(月		組(担当:松田	侑樹
この時間のねらい:① ②		:知ろう。)処理(反復処理)	について学ぼ	う。	
皆さんが遊んでいるなめたいとき、また、特定出るまで行うというのなじことを続けさせる処理	の場所に出て	くるモンスターを つです。このよう	対まえたいとき に、プログラミ	には、周回プ ングとして何	゜レイを
他に、そこそこ前の記 ○番目の娘と結婚しまし 炎上が起こったようです 満たしたことで、その紹 つけて、それが満たされ ます。	」た。(ネタバ↓ ↑。話を戻して 5末になってい	ン回避のため隠し 、この内容には決 ます。このように	ています。)こ <i>の</i> た定的なフラグカ こ、プログラミン)結末には、な ^バ あり、そこの ・グなどでも、	:かなか 条件を 条件を
最後に、今までも自然 四角形を書くプログラク ようになっています。(このように、プログラ しくはと言	ふを作ったとし これは絶対で ラムは上から-	ます。すると、一 す。)	番最後に書いた	ものが一番上	
逐次処理に関しては、 ん。ほかの2つの処理を			こいけますから、	今回は取り扱	:いませ
それでは いる表計算ソフトである くれる機能がついていま この機能は何も連続性	る きす。これを_	ic	は数字や曜日な と言います。	どを連続して	つけて

入れていきます。これは言い換えれば同じ文字列を_____表示させることと同じで

す。要は、_____の一例といえるということになります。

それでは、実際に使う方法を見てみましょう。右のやり方は java での宣言方法と全く一緒です。(教科書 p.61 参照)

for(int i = 1; i < n+1回目; i++) [くり返す処理の内容 }

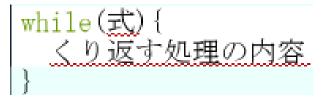
さて、これはどんなことをしているかというと引数のあるはずの括弧内には基本的な条件が書かれています。この条件の書き方が面倒ですが、繰り返す回数を表す変数_____を宣言し、それを何回行うかは不等号を用いて表します。増やし方は基本的には 1 ずつのため上のようにしておけば大丈夫です。

<増やし方について>

先ほどの for 文での増やし方は他にもあり、例えば、i _____2 と記述すれば 2 ずつ増加させられたり、 でも 2 ずつ増加になります。

また、もう一つ while 関数も反復処理の関数の一つです。(教科書 p.65 参照)

この式の使いどころは<u></u>宣言してある変数について条件を付けることがで



きることです。ただし、この条件が偽にならない場合には、この関数に書かれている処理はずっと終わることができません。このような処理を______と言います。そのため、デメリットとしては、場合により、この状態になってしまい、ほかの処理を行うことが難しい状態になるということが言えます。これらの文を利用することでできることは、同じものを複数出すことや、まったく同じものをランダムな場所に表示するなどができます。

基本的には横に並べることが目的の繰り返しですが、2つ重ねて利用することで、縦横の 両方向への並びも制御させることができます。

for 関数の重ね方(以下に手書きしましょう)